

学習指導要領		都立葛飾野高校 学カスタンダード
(1) 世界史への いざない	ア 自然環境と歴史 歴史の舞台としての自然環境について、河川、海洋、草原、オアシス、森林などから適切な事例を取り上げ、地図や写真などを読み取る活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気付かせる。	[大河流域の生活と歴史] ・大河流域において栄えた古代文明が、自然環境と深くかかわることによってその地域特有の生活・文化に発展したことを理解する。 [海洋の生活と歴史] ・漁撈や交通・交易の場としての海洋の特色と人類の生活や活動との関わりについて知る。 [草原の生活と歴史] ・内陸アジア北部にひろがる大草原の自然環境の特色と遊牧民との関わりについて理解する。 [オアシスの生活と歴史] ・内陸アジア南部などの砂漠に点在するオアシスの自然環境の特色と人類の生活や活動との関わりについて知る。 [森林の生活と歴史] ・熱帯林・温帯林・亜寒帯林などの様々な森林と人類の生活や活動との関わりについて知る。 [日本と世界の人々との交流] ・日本列島を訪れたり、日本列島から海外に渡ったりした使節や僧侶、商人などが渡航に至るまでのいきさつやその時代の様子を大観し、世界との関係や交流の事跡を理解する。
	イ 日本列島の中の世界の歴史 日本列島の中に見られる世界との関係や交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な事例を取り上げ、年表や地図などに表す活動を通して、日本の歴史が世界の歴史とつながっていることに気付かせる。	[外来の道具や技術の伝播] ・外来の道具や栽培植物、技術、日本列島内の各地や身近な地域に残されている遺跡や遺物などについて知る。 [日本の文化や生活] ・日本列島各地に残る祭礼や伝説、年中行事、歳時記、文字、暦などについて知る。 [日本に伝来した外来の宗教] ・仏教やキリスト教など外来の宗教と日本と世界のつながりを知る。
(2) 世界の 一体化 と 日本	ア ユーラシアの諸文明 自然環境、生活、宗教などに着目させながら、東アジア、南アジア、西アジア、ヨーロッパに形成された諸文明の特質とユーラシアの海、陸における交流を概観させる。	[東アジアの文明] ・東アジアの農耕地帯に成立した中華文明と内陸アジアの乾燥地帯に台頭した遊牧国家の動向を中心に、日本を含む東アジアの形成過程や文明の特質を理解する。

	イ 結び付く世界と近世の日本 大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流、アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い、16 世紀から 18 世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を把握させる。	[南アジアの文明] ・古代インド文明を中心に、南アジア独自の宗教と社会制度を基盤とする文明の形成過程や特質を理解する。 [西アジアの文明] ・西アジアにおける古代オリエント文明とイラン人の活動、アラブ人とイスラーム帝国の形成過程や特質を理解する。 [ヨーロッパの文明] ・古代ギリシア・ローマ文明、キリスト教を基盤とした東西ヨーロッパ世界の形成過程や文明の特質を理解する。 [諸地域世界の交流] ・8 世紀以降のユーラシアの海・陸のネットワークについて、諸地域世界の交流が活発化し、諸地域世界が再編されたことを理解する。 [世界の一体化とヨーロッパ] ・ヨーロッパでのルネサンスや宗教改革などの動きとともに、ヨーロッパによる海外進出について触れ、アジア交流圏への参入や、ラテンアメリカの征服・植民地化について理解する。 [アジアの諸帝国] ・16 世紀から 18 世紀までのアジアの諸地域の安定した支配と経済的繁栄について理解する。 ・やがてアジア諸帝国の支配体制がゆりみ、ヨーロッパ諸国の進出にともない変容したことを理解する。 [ヨーロッパの主権国家体制] ・ヨーロッパの主権国家体制の特質と形成過程を理解する。 [大西洋三角貿易とアフリカ・アメリカ社会の変容] ・大西洋三角貿易による世界の一体化の進展とそれに伴うアフリカ・アメリカ社会の変容を理解する。 [世界の一体化の動きと近世の日本] ・16 世紀から 18 世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本について、近隣諸国との関係を踏まえて理解する。
--	--	---

ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 産業革命と資本主義の確立、フランス革命とアメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。	[産業革命と資本主義の確立] ・産業革命と資本主義の確立について、世界史的な視野でとらえさせ、経済や社会の変化を理解する。 ・資本家・労働者が形成され、労働や社会生活の在り方が変化し、労働運動や社会主義思想が成立したことを理解する。 [フランス革命とアメリカ諸国の独立] ・アメリカ合衆国の独立とフランス革命、ラテンアメリカ諸国の独立を通して、大西洋世界で起こった一連の政治的変動を理解する。 [自由主義・国民主義の進展] ・ウィーン体制下で自由主義・国民主義が高まりをみせ、19 世紀後半にはイタリア・ドイツなどで国民国家が形成されたことを理解する。 [アメリカ合衆国の発展] ・アメリカ合衆国の西部への領土拡張と移民の流入、先住民やアフリカ系の人々に対する抑圧がこの国の国民形成に独自の性格を与えるとともに、南北戦争後の産業資本家が主導した工業化の進展について理解する。
エ アジア諸国の変貌と近代の日本 ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中での日本の動向を扱い、19 世紀の世界の一体化と日本の近代化を理解させる。	[アジア諸国の変貌] ・18 世紀後半から 19 世紀までのアジア諸国の支配体制の動揺と、ヨーロッパ諸国の進出により伝統的な国家体制や貿易構造の変化が引き起こされたことを理解する。 ・18 世紀後半から 19 世紀までのアジアの諸帝国の動揺と伝統文化の変容などに触れ、それに対する社会変革へのアジアの主体的な動きについて理解する。 [日本の開国と近代化] ・日本の近代化の過程について、他のアジア諸国との関係など、世界の歴史の中での日本の位置付けを理解する。

(3) 地球社会と日本	ア 急変する人類社会 科学技術の発達、企業や国家の巨大化、公教育の普及と国民統合、国際的な移民の増加、マスメディアの発達、社会の大衆化と政治や文化の変容などを理解させ、19 世紀後期から 20 世紀前半までの社会の変化について、人類史的視野から考察させる。 イ 世界戦争と平和 帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19 世紀後期から 20 世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。	[第二次産業革命] ・第二次産業革命による交通・通信・マスメディアの発達とそれに伴う産業構造の変化、企業や国家の巨大化、国家の役割増大による国民統合の進展を理解する。 [国際的な移民の増加] ・ヨーロッパから南北アメリカやオセアニアへの大規模な移住、中国や南アジアから大量の移民労働者の供給について理解する。 [大衆社会の出現] ・大量生産・大量消費社会の登場による社会の大衆化の過程で変容した政治や文化について理解する。 [帝国主義] ・欧米の帝国主義諸国が植民地獲得や勢力圏拡大の抗争を繰り広げ、一方で日本を含むアジア・アフリカ諸国ではナショナリズムが高揚していく意義を理解する。 [第一次世界大戦とロシア革命] ・第一次世界大戦の原因や戦時下の総力戦体制の性格、戦争がもたらした世界の変化について理解する。 ・大戦中にロシアではじまった社会主義革命が起こったことを理解する。 ・第一次世界大戦が日本の政治や経済などに与えた影響について理解する。 [第一次世界大戦後の国際秩序] ・国際連盟やヴェルサイユ体制・ワシントン体制の理念に着目し、第一次世界大戦後の国際社会の枠組みが大きく変化したことを理解する。 ・アジア諸地域の民族運動の動向について理解する。 [世界恐慌とファシズムの台頭] ・世界恐慌とその対応が、ドイツのナチズムなどファシズムの台頭や新たな国際対立を生み出したことを理解する。 ・東アジアにおける国際情勢と日本の動向について理解する。 [第二次世界大戦] ・第二次世界大戦について、戦争被害の甚大さや複合的な性格、戦後の国際連合の設立や国際政治に
--------------------	---	--

ウ 三つの世界と日本の動向 第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。 エ 地球社会への歩みと課題 1970 年代以降の市場経済のグローバル化、冷戦の終結、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、地球社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について考察させる。 オ 持続可能な社会への展望 現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。	与えた影響を理解する。 〔冷戦のはじまり〕 ・米ソ両陣営の対立による冷戦の構図と、両陣営の核兵器や人工衛星の開発による緊張関係の激化について理解する。 〔第三世界の台頭〕 ・アジア・アフリカの植民地が解放され、第三世界として国際社会において発言権を強めたことを理解する。 〔1960 年代の世界〕 ・ヴェトナム戦争、中ソ対立による米ソ両国の指導力低下に伴い、多極化が進んだことを理解させる。 ・先進国の間に南北問題が顕在化してきたことを理解させる。 〔市場経済のグローバル化〕 ・1970 年代のドル危機と、石油危機を打開するために、先進諸国は産業構造を転換し、新興工業地域では欧米や日本などから技術や資本を導入して工業化を進めるなど、市場経済のグローバル化が進展したことを理解する。 〔冷戦の終結と社会主義体制の崩壊〕 ・冷戦の終結や社会主義体制の相次ぐ崩壊により、東欧諸国やソヴィエト連邦が政治的に自由化し、市場経済へ移行する過程を理解する。 〔地域統合の動き〕 ・ヨーロッパにおける地域の経済的統合から、EU による国民国家の枠を越えた政治的統合への発展への過程を理解する。 〔地域紛争の頻発〕 ・パレスチナ紛争など世界各地で頻発している地域紛争の歴史的背景を理解する。 〔地球社会の歩みと課題〕 ・知識基盤社会への移行に伴う生活の向上と、環境や資源・エネルギーをめぐる問題など今日的課題について理解する。
--	--